

The Expert



平成24年12月10日発行

教育企画管理部

総合診療・急病センター(総合診療外科)

島田 長人 臨床教授(昭和57年・東邦大学卒)

「たかが脱腸、されど脱腸」よもやま話

今年度10月より教育企画管理部の臨床教授に就任いたしました。診療科としては、総合診療外科を担当しておりますので、そのお話をさせていただきます。

当科は、外科的な症候を有する患者さんの診断や治療そして専門医へのコンサルトなどを行っている診療科です。対象となる主な疾患には一般外科領域と救急領域があります。一般外科領域では鼠径ヘルニアや腹壁癒痕ヘルニアなどの手術治療を行っています。また救急領域では、救命救急センターのスタッフや各診療科の専門医と連携しながら、主に急性腹症の診断と緊急手術を行っています。

今回は、外科疾患の中で最もcommonな疾患である鼠径ヘルニア、いわゆる脱腸についてお話したいと思います。鼠径ヘルニアの国内での手術件数は、年間約16万件と推定されています。アメリカではもっと多く年間約80万件とも言われています。臨床医にとってはその診断は容易ですが、ときに似て非なる疾患に出会うことがあります。例えば、帯状疱疹に伴う腹筋麻痺、大伏在静脈の静脈瘤、そして最も気を付けたいのが妊娠中の子宮円索に形成される静脈瘤です。これらの疾患は鼠径ヘルニアの症状と似ているため、視触診のみでは鑑別できないことがあります。帯状疱疹による腹筋麻痺は当然ながら手術の適応はなく、多くの場合3~12か月で自然に軽快します。ただ、疾患の認知度が低いため、鼠径ヘルニアや腹壁ヘルニアの診断で外来を受診されることがほとんどです。妊娠に伴う子宮円索静脈瘤も手術の適応はありません。ときに出産後に血栓を合併して発赤、腫脹、疼痛が出現し、ヘルニア嵌頓の診断で受診される場合もあります。また、女性のヘルニアには、異所性子宮内膜症を合併する場合も少なくありません。術前に硬い腫瘤が触れ、生理の周期と一致する痛みがあれば診断は比較的容易ですが、肉眼的に腫瘤がなくても病理検査で子宮内膜症が認められる場合があります。このように、鼠径ヘルニアは、common diseaseですが、時に思わぬピットフォールに陥ることもありますので、「たかが脱腸」ではなく、実は術前の正確な診断が重要な疾患のひとつであり「されど脱腸」なのです。

次に、治療について少しお話します。従来法といわれる筋膜を縫い縮める手術方法つまりtension repairには数多くの術式が開発されましたが、その再発率は10~15%と言われています。現在では、tension-free repairの時代となり、メッシュを用いた修復術が主流となっています。そのデバイスには、Light Perfix PlugやUltrapro Hernia System、Direct Kugel Patchなどたくさんあります。それぞれ利点、欠点がありますので、基本的には患者さんの手術所見に合わせて最も適切なデバイスを選択しています。最近では日帰り手術を行っている施設もありますが、大学病院という事情から、呼吸・循環器などの様々な併存疾患をお持ちの患者さんが多いため基本的に入院治療としています。

Commonの症候のなかに、rareあるいはkiller diseaseが含まれています。当科ではcommon diseaseであっても常に慎重な診断と治療を心がけています。鼠径ヘルニアなどの一般外科領域の疾患や急性腹症の手術対応はもちろんのこと、日常診療の中で診断や治療方針でお困りの際は、ぜひ当科にご相談ください。地域の先生方との連携の窓口になれるよう努力していく所存ですので、何卒よろしく願いいたします。

診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

診療日

島田 長人 臨床教授：月曜日午前
火曜日午前
土曜日午前(第1・5週)

医療機関専用電話 **パートナー**
03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 9:00~17:00、土曜 9:00~14:00)
(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター

The Expert



平成24年12月10日発行

● 産婦人科 前村 俊満 准教授(平成2年・帝京大学卒)

産婦人科は唯一心から「おめでとう」と言える診療科です

産婦人科医局の臨床状況

産婦人科は、産科（周産期）はもちろん、リプロダクション、婦人科腫瘍、内視鏡と広範囲の専門知識が必要となります。医局員それぞれが進むべき分野の専門ライセンスを取得し、東邦大学医療センターでさらに各分野を極めるため日々臨床に全力を尽くしています。特に周産期は唯一「おめでとう」と言える幸福感を患者さんと共有できることが最大の魅力だと思います。

東邦大学大森病院の産婦人科での臨床状況は、分娩数900前後と都内大学病院ではベスト3に入る分娩数を誇っています。また、リプロダクションセンターでの採卵件数、特殊技術を要する内視鏡手術も全国大学病院のトップレベルです。そのため地域連携病院の先生方には安心してご紹介いただける臨床環境にあります。

母体搬送と地域連携

大田区および品川地区の拠点病院として地域連携を大切にしています。数年前は母体搬送が秩父・小田原など遠方からの搬送もありましたが、近年、東京・神奈川の周産期搬送体制が整い、担当ブロック外からの搬送依頼は減少しました。その代わり大田・品川地区からの搬送依頼の95%以上が受け入れ可能となりました。これは、大田・品川区在住の妊婦、開業医の先生方にとって大きな安心となっているのではないかと思います。

大田区の分娩状況

近年、大田区の出生数は年間約5300件であり、その約52%が大田区内での分娩です。4年前は40%台でありましたが、同年より大田区周産期委員会を開催し、大田区内での分娩増加、妊婦健診項目の大田区統一化を目指し委員会を重ねてきました。その成果として50%に満たなかった大田区在住の妊婦が大田区内で半数以上、分娩可能な状態となりました。

おぎゃー献金

おぎゃー献金の活動は、生まれてきた児が心身障害であったとき、少しでも良い生活ができるよう愛の手を捧げる産婦人科医が中心となって活動している公益法人です。この法人で評議員として、その子供達的生活環境が良くなるために企業献金や、元気に生まれてきた子供を授かった両親からの寄付を頂き、それを還元する活動をしています。また、心身障害の原因追及のための研究機関へも研究費として配分しています。今後も赤ちゃんが心身障害者であってもその子が幸福に生活できるよう援助活動をしていきたいと思っています。

可能な限りハイリスク症例を受け入れるため、少人数で頑張っている産婦人科医局員のみならず、おぎゃー献金も宜しくお願い致します。

● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

● 診療日

前村 俊満 准教授：火曜日午前
水曜日午前

医療機関専用電話

パートナー

03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 9:00~17:00、土曜 9:00~14:00)

(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター